

# 社歌がつなぐ想い

「お客さまに真心を込めて一生懸命に働いているのか？」  
「私たちが暮らす地域に貢献できているのか？」  
「時代の変化をキャッチしているのか？」  
私たちセキショウは社歌に込められた創業の心を胸に、自らにこう問いかけ、挑戦を続けています。

明治41年に創業した関彰商事が社歌を創ったのは昭和48年。  
売上100億円、従業員数が800名を超えた創業65周年の節目でした。  
多くのご縁が重なり、作詞を藤浦洸氏、作曲を古関裕而氏にお願いし社歌が完成したのです。

それ以来、私たちは  
「関彰 関彰 関彰商事 われらは誇る高らかに」という歌詞にあわせて  
心をひとつにして歌ってきました。

社歌が生みだすものは何でしょうか？  
それはリズムを合わせて一緒に歌うことがもたらす一体感だけではありません。  
社歌を歌い、聴くことで創業から受け継ぐ「心」を再確認しているのです。

日本経済が発展し、時代が昭和から平成に移っても  
「深き理念の旗のもと 互いに誓う郷土愛 人と世のため ひたすらの」  
という歌詞にあわせて私たちは社歌を歌い、心をつなぎ、自らに問いかけて行動してきました。

その結果、エネルギーに続き、エンジニアリング、ビジネス、モビリティ、  
ライフサイエンスと多くの事業が生まれました。  
そして、令和の時代に入っても、カーボンニュートラルへの取り組み、ベトナムに続くインドでの事業、  
スポーツアナリティクス事業、クラフテリアと新たな価値創造に挑み続けています。

2024年、創業116周年を迎えたセキショウグループは社歌をリニューアルしました。  
歌詞や曲は変えず、ヴァイオリニストの大島理紗子氏に編曲を依頼。  
時代に合ったアレンジを施したその新しい社歌は「守るべきものは守り、時代に合わせて挑戦する」  
というセキショウの企業姿勢と重なるものがあります。

私たちは自らに問いかけ、新たな挑戦を続けます。

「それはセキショウグループに関わる全ての人たちと  
『幸せ=ウェルビーイング』を分かち合っているものなのか？」



編曲担当  
株式会社 Bigisland  
代表取締役 | ヴァイオリニスト  
大島 理紗子氏

【アレンジへの想い】  
今回社歌リアレンジで特に意識したのは、多様性という言葉から世界を通じて可能性を広げていくということ、そして現代という今の時代を生きていることです。  
この2つを意識し、2番には讃美歌でもよく使われる和音進行をストリングスで、間奏やエンディング部分には包み込むように繋がっていく音楽を木管、金管楽器中心に歌うように吹いていただきました。  
また歌には社員の方にも参加していただき、みんなで作り上げていくということも意識しました。ぜひ聴いてください。

【プロフィール】  
愛知県出身のヴァイオリニスト。5歳よりアメリカにてヴァイオリンを始める。東京藝術大学音楽学部卒業。これまで国内外のコンクールで優勝。TVやLiveなど数多くのメディアに出演。その他多くのアニメや映画のレコーディングなどでも活躍中。2022年7月株式会社Bigisland設立。



bigisland HP

## 関彰商事社歌

作詞 藤浦洸 / 作曲 古関裕而 / 編曲 大島理紗子

瞳正しく眉貴く  
開祖の理想 受け継ぎて  
日毎の努力 たゆみなく  
もゆる生命の 若人の  
揺るがぬ誠意 ここにあり  
関彰 関彰 関彰商事  
われらは叫ぶ 高らかに

仰ぐ 英気の 筑波山  
流れは清き 鬼怒川の  
関東平原 夢多く  
同じ志の 若人の  
あふるる熱意 ここにあり  
関彰 関彰 関彰商事  
われらは誇る 高らかに

深き理念の 旗のもと  
互に誓う 郷土愛  
人と世のため ひたすらの  
足並そろろう 若人の  
前進飛躍 ここにあり  
関彰 関彰 関彰商事  
われらは謳う 高らかに



関彰商事 社歌はこちらからお聞きいただけます



おかげさまで創業116周年を迎えました。  
日頃のご愛顧に心より感謝申し上げます。

